

編集後記

2012年、慶應義塾図書館は開館100年の記念すべき節目の年を迎えました。今号はそれを特集といたしました。慶應義塾のシンボルでもある、レンガのゴシック建築の図書館建築に至るまでの先人の苦勞と将来を見据えた計画に改めて敬服すると同時に、歴史を振り返ることの重要性、どんなに電子化が進もうともやはり「館」は大切であるとの感を強くいたしました。記事を通して、4月28日に行われました記念式典の様子や図書館の歴史をお伝えできれば幸いです。

今号は特集をもう一つ組んでいます。慶應がいま力を入れている、電子学術書利用実験プロジェクトの取り組みです。2010年に始めた、大学教育の場に相応しい日本語学術書のビジネスモデルを探ることを目的としたこの実証実験プロジェクトは、慶應内での実験が一定の成果を上げ、2012年秋から、複数の大学を交えての共同実験プロジェクトとして再出発いたしました。歴史は浅いながらもこちらも節目を迎えており、今号では、その技術的成果と課題、利用実験班からの報告をいたします。東京大学出版会の黒田様、慶應義塾大学出版会の小磯様からもご寄稿いただき、出版者様側からの貴重なご意見も掲載することができました。これから著作権の問題等まだまだ解決しなければならない課題はございますが、目的に向かって努力している様子を感じ取っていただければと思います。

このほか特集記事以外に、各地区メディアセンターの活動報告を記事としました。前号以来一年間の活動報告としてお読みいただければと存じます。

ご寄稿くださった皆様、ご多忙のところご執筆くださりありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

(玉村文字)

誌名変遷

八角塔 : 1号(昭42(1967).7) - 6号(昭45(1970).3)
KULIC (ISSN 0913-0705) : 1号(昭45(1970).10) - 26号(1992.11)
MediaNet (ISSN 0919-8474) : No. 1(1993.11) -
